

# 横須賀のこともっと知ってみよう 大学生のポランティア

就活にやくだつ？

仕事に活かせる？

## 入ってみなきゃわからない



みんなに聞きました。  
ぶっちゃんポランティアってどうですか？

# のたろん

春★号 

(((すかつこの 市民活動情報)))

# やめたいと思ったことも何度もあるよ

## 続けてたら まあまあ楽しくなった

サポセンのサポーターとして活躍している大学生を中心としたボランティアグループ『さぼサポ』のメンバーたちに聞きました。

—— ボランティア、始める前の印象は？

とりあえず「めんどくさそう」。

疲れるでしょ 難しいでしょとか。

自分にできるかって不安で、失敗するんじゃないかって最初は怖かった部分もある。

楽しいかも面白いかもっていう期待もちょっとあったかな。

—— やって見た後の感想をおしえて？

発見がある。

他人とのつながりを感じられるなあと。

人となにかを「一緒に作ってる感」は少なくとも心地いいかな。

イベントの趣旨とかに自分なりの考えを持つこともできたり。

次のイベントが楽しみにになったね。

新しく来た後輩に教えてあげて、その子が次のイベントにも

参加してもらえた時、嬉しかったな。

トラバーと三角コーンのある会が上手になりました。

トラバー？

うん、工事現場で使うアレ。

まさに現場感覚だね。

あと、自分の限界がわかるようになったよ。

それ大事！無理しちゃダメだね。ここでやめとこって判断するの難しいんだよね。

—— さぼサポでのボランティア経験は、今、どんなことに活かされている？

テント張り！職場でのイベントのときとか。

子どもの接し方とか。

人と接することにほとんど抵抗なくなったな。みんなに会う前は知らない人と話すなんてぜんぜん無理だったし。

相手にどう伝えればいいのか意識するようになったのは大きい。履歴書にボランティアって記録ができたり。

—— ボランティアって就活に役立つの？

いろんなことにチャレンジしてみようって思うようになってたりもして。

面接官が興味を持ってくれて、ずっと「さぼサポ」のときの話をした。なんでだろ。うまくしゃべれた。

どたんばチカラがつくよね。無茶ぶりに対応できるようになってるから、なに振られてもなんかできちゃう。

—— これからボランティアやろうかな。と思ってる人にメッセージをお願いします。

体力も頭も使うわなきゃいけないボランティア、はっきりいってバイトよりも大変だし、ほぼほぼ無償。それでもボランティアを続けている自分を不思議に感じる瞬間もあります。

ボランティアと仕事の違いって、ある程度自由に動けるところだと思う。「ラフさ」というのも、「自分がやりたいからやる」っていうのも気持ちいいです。

### さぼサポ = 「サポセンサポーターズ」メンバー募集

●自分の都合の良い時にチョコッとボランティア始めよう！ボランティア未経験の人も大歓迎！

●メンバーは県立保健福祉大学を中心に関東学院大学の学生など約600名の登録があります。

申込：[notalone.sapocen@ezweb.ne.jp](mailto:notalone.sapocen@ezweb.ne.jp)

件名は「さぼサポ登録」

本文に「名前（ふりがな）、性別、住所、電話番号、最寄駅、学校名」を記入してください。







～市民活動を支える人たち～

のたろんフェア2019 実行委員長 藤野 信行 さん

明るい笑顔と歯切れのよい語り口。のたろんフェア2019で、実行委員長を務められた藤野信行さんにお話を伺った。

昭和24年茨城県勝田市に生まれ。2歳の時追浜に一家で引っ越した。当時は井戸水の時代だった。

入学した小学校は15クラスで、午前と午後の2部授業。そんな子どもの頃は、家庭に笑いが少なかった。物事に積極的になれずに、授業中は引っ込み思案で手を上げられない。その反動で、笑いに憧れ漫才や落語が好きだったと云う。

工業高校の電気科に進学、休日はアルバイトに明け暮れた。就職は電気科の技術を活かして、日立製作所戸塚工場。電話交換機の製造、設計、そして、渉外・顧客担当として教育センターに勤務した。特約店に対しての教育に務め、レッスンプランを作成したり、教務関係全て、業務改善や会計業務、教える事以外の総ての事をした。また、子どもの頃の反省から「消極的じゃだめなんだ。人前で恥をさらしてもいいから、なにかやらなければ・・・」と、社内運動会の際は応援団に入って団長を引き受け、業務改善の発表会があったら率先して部の代表を務め、積極的に人前で話す努力を続けた。

53歳の時、早期退職の勧めに応募。第二の人生、世の中の役に立とうという気持ちで、ホームヘルパー二級、後に、介護福祉士の国家資格を取る。

障がい者施設に勤めた。「我が子が高校の時、通っていた特別高等支援学校の保護者会・会長を引き受けた。福祉の仕事やボランティア活動を志す活力の原点にだったと思う。」医療機関等で働いた後、デイサービスの施設に7年間勤めた。その間「愛詩輝（あいして

る）」という刺繍の入ったジャケットを作りパフォーマンスをしたり、利用者を楽しんでもらうために工夫を凝らしていた。その頃、母が認知症となり、一人暮らしを続けることが困難になっていた。仕事の傍ら泊まり込みで約10年間介護をし、94歳の最後を看取った。



ある日、広報よこすかの高齢者生きがい・カラオケ講座の記事が目にとまった。2時間位なら仕事や介護をしながらでも参加できるかも知れないと思い応募した。講師だった阿部きみえ先生との出会いだった。その後、阿部きみえ先生を支え、「みんなの宝石箱」と「民謡・きみえ会」の設立運営に携わって行く。

将来の夢は、「もっと落語がうまくなって、お年寄りの笑いの場が増える事。私の落語で余暇を楽しい時間にして皆で共有したい」と云う。

現在、居住の藤沢市では落語サークルに入っていて、「何達亭愛詩輝（なんたっぺいあいしてる）」の名前でいろいろな介護施設や地域の縁側集会所で出前落語をしていると云う。子どもの頃から笑いに憧れ、介護職をしている時は上野広小路の寄席に通って落語を聞き、学び、今は語る側として楽しむ。

自分の好きな事、会社での経験を強みとして活動に生かし、弱い所も自らに試練を課し、強みに変えていく藤野さん。皆に笑顔をもたらして勇気を与えてくれる我町のスターなのだと思います。

(はこざき)

## 団体紹介

### ● みんなの宝石箱

歌謡曲、流行歌、演歌など、歌の指導をしながらみんなで歌います。


馴染みの演歌を中心に全員で大合唱！とても楽しいですよ。どうぞご参加ください。


### ● 民謡・きみえ会


民謡を幅広く伝えています。民謡の歌唱指導を通じて地域の方々と交流をしています。


高齢者施設への慰問や地域の行事にも参加をしています。





 ぬまちゃ～ん！サポセンの利用票を書いてくださいって言われたんだけど、自分の活動は、活動分野のどこに丸をつけていいかわからないよ。どうしたらいいの～？


 そうねえ、自分がしている活動はこれに該当する！って自分が思うところに丸をつけてくれればいいのよ。何個も該当すると思ったら、思うもの全部に丸をつけてくださいね。


 えー、じゃあのたろんは全部に関係していると思うから全部に丸をつけてもいい～？


 もちろんいいわよ。でも流石に全部に丸をつけた人は今まで一人もいないわねえ。


 やったー！全部に丸をつけるぞ～！まるまるまるまる…。い、いっぱいあるね。21個もある～！！全部に丸つけるの大変。ところでぬまちゃん、一番多く丸が付くって、いったいどの分野なの～？

 んー。一番多いのは「文化・芸術・スポーツ」かなあ。次に多いのが「保健・医療・福祉」その次が「まちづくり」かな。自分の活動の分野に適切なものがないと思って「その他」に丸をつけてくれる人も多いのよ。

 その気持ちわかる～！のたろんも「うさぎ」っていう項目があれば迷わないで丸つけるのにな～。

 もし、自分の活動がどこの分野に入るかわからないと思ったら、スタッフに相談してくれば、これに該当しそうですよね～って一緒に考えますよ。

 そっかー！じゃあね、今日の活動は、のたろんサポセンに、おトイレを借りに来ました！どの分野に丸をつけたいんですか？

 トイレだけで帰るときは利用票を書かないでも大丈夫よ。

**甘党錦鯉**

わがやの庭にしきじい

我が家の庭の片隅、そこに筆者の錦鯉は住んでいる。庭の片隅に雨風をよけるための小屋を建て、その中に水槽を置いているのだ。ちなみにこの小屋は筆者の父が金魚を飼うために完全日曜大工で造り上げた力作で、我が家では「金魚団地」と呼んでいる。小屋の中に金属製の棚を設置し、水槽を2段にして配置することができるというのがその名の由来である。

その金魚団地になぜか錦鯉が住んでいる。筆者が金魚屋さんで買ってきたものだが、いつの間にか金魚団地の2階というもともよい場所に収まってしまった。そんな生活環境としては申し分ないこの物件だが、筆者の愛（まな）錦鯉（にしきごい）にはやや手狭になってきたようだ。筆者が餌をやるうと水槽の中を覗き込んだところ驚いたのか急に泳ぎ出して水槽の壁に頭をぶつけるようになってしまった。「餌をやるうと思っただけなのにそんなに驚かなくてもいいじゃん」と少し悲しい気分になりながらも、餌をやればパクパクとよく食べるので癒されることこの上ない。

海洋政策研究所によると、コイが泳ぐ速度は時速6キロメートル。「あんまり速くないなあ」と思われるかもしれないが、「自分の体長の5.6倍の距離を1秒間に泳ぐ」といわれるとどうだろう。「そりゃ水槽の中じゃ頭ぶつけるわ」とご納得いただけるのではないだろうか。

「この子たちが頭をぶつけないで済むにはどうしたら良いだろう…」そんな考えを巡らし、あるとき筆者はひらめいた。

「そうだ、池を掘ろう！」

「池を掘る」。思いつくだけなら簡単だが、実現するには数々のハードルを越える必要があるだろう。筆者にとっては人生の一大イベントとなることは間違いない。

筆者のあくなき挑戦の日々が今、始まる。（小串滋彦）

**サポセンtopics** トピックス

「さぼサポ」のほかにも

**サポセンの 学生ボランティア**

サポセンの学生ボランティアチームは、今号1,2面で紹介した「さぼサポ」の他に、“思ったことをみんなでも実現していく”高校生、大学生を中心としたボランティアサークル「ぼびーぐみ」と、市内の養護施設で介助補助などを実践する「養護施設支援ボランティア」があります。思い立ったら吉日です。どうぞいつでもご連絡ください。お待ちしております！

のたろんがお送りする「のたろんジャーナル」



のたろんジャーナル

- ◆サポセン発信情報
  - ◆Eメール [info@yokosuka-supportcenter.jp](mailto:info@yokosuka-supportcenter.jp)
  - ◆サポートセンターのホームページ
- 「のたろん Web」は「のたろん」で検索♪

情報誌「のたろん」春号（通巻78号） 2019年4月1日

発行 横須賀市市民活動サポートセンター  
編集 指定管理者 特定非営利活動法人 YMC A コミュニティサポート  
横須賀市本町3-27（京浜急行汐入駅徒歩1分）

TEL 046-828-3130  
FAX 046-828-3132

市民活動サポートセンターは、市民活動、ボランティア活動の打合せや作業、情報収集を行なう施設です。ご利用の際は受付にて利用票のご記入をお願いします。

